

斜析板構造の解析

大阪工業大学

大阪設計コンサルタント KK

今上

正員 ○岡村宏一
正員 吉田公憲
正員 小林真一

I) まえがき： 斜析板構造は、一般に斜析板を頂板とし矩形板を側壁として構成される立体構造であり、断面力の配分等 設計上未知の実吉有している。この種の構造について研究と申す例は数少ないようである。¹⁾ われわれは先に連続斜析板の解析²⁾、ならびに門型壁体の解析³⁾に用いた手法を応用してこの構造に対する1つの解式を求めて報告する。

II) 解法の大要

斜析板の頂板である斜析板について、実際に最も利用度の高い場合として相対する斜線境界が自由、他の2辺が側壁との連続節線(II~II, III~III, 図-1参照)となるような場合の解式を求める。このような斜析板の解式を比較的容易に得るために直交座標を用い、斜に相対して分布する不静定モーメント(M_{xy} , M_{yy})の導入を簡易化するため、その分布を矩形に分割する近似法⁴⁾(図-2参照)および節線上に沿ける、たわみ角-端モーメント公式を求めるための逐次法⁵⁾、さらに斜線境界の自由条件を満足させるための逐次法⁵⁾を適用した。側壁は矩形板であるので、その自由辺の条件は Levy 解等の補足解を用いて容易に満足されるので、この辺上には境界逐次を探らない。頂板(斜析板)と連続する節線上では、斜析板と同じく分割された不静定モーメント及び斜析板と同一の同じに逐次を探る。側壁基部の切線(I~I, II~II)は本文では固定条件を満足せぬ。一般に荷重によって頂板は水平移動からびに節線上に分布するせん断力の合力の偏心によって回転を生じ、側壁(図-1)は、例えば節線(III~III, IV~IV)が直線を保持しつつねじらゆることになる。本文に示すような未端固定の場合の側壁のこのようが変形の条件は、高さ尤の2倍の辺長を有する板の対称変形を若し、節線(I~II又はIV~IV)に相当する中央線上に矩形分割された未知の線荷重を与え、この線上に選ばれた逐次のたわみを直線的に配置させることによって満足される。一般に、この

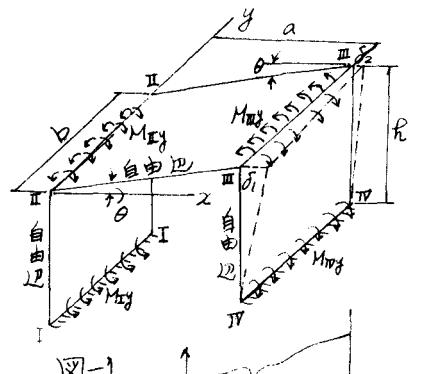


図-1

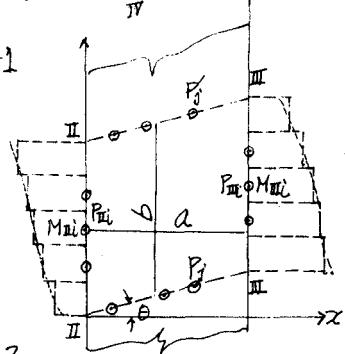


図-2

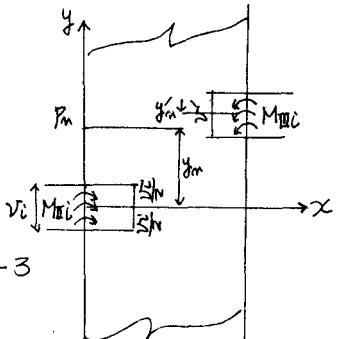


図-3

1) 四野宮教授はこの問題に対する試験を示した。土木学会年次学術講演会(S.41)

2) 岡村, 吉田, 小林: 連続斜析板の解析 土木学会関西支部年次学術講演会(S.41)

3) Kurata, Okamura: A Method of Analysis of a Solid Structure Composed of Plate Elements "Publication" I. A. B. S. E (1964)

4) Kurata, Okamura: A Method of Approximation on the Plate Problem. Memo. Osaka City Univ. (1962)

5) 岡村: 裁形平板の境界値問題に対する逐次法の応用について、大阪工大紀要 Vol. 8. No 2 (1962)

6) 岩田, 岡村: 門型壁体の曲げ 土木学会年次学術講演会(S. 38)

種の構造を形成する平板はせん断変形に対する抵抗が非常に大きく、又側壁下端の基礎に対する変位等も充分な評価が出来ないので、頂板の回転を無視し、非対称荷重の場合に一定の水平移動をすると見做すのが実用的である。 $(\delta_1 \neq \delta_2 = \delta)$

III) 解式

図-2に示すように、斜に相対して分布する節線上の不静定モーメント M_{xy} , M_{yy} を幾つかの等分布モーメント M_{II} , M_{III} 等の集合による近似分布に置換するとその導入が簡易化される。すなわち、この場合まず図-3に示すよしが相対2辺単純支持の一方向無限板の原点Oにある分布巾 V_0 をもつ等分布モーメント M_{II} が作用する場合のたわみ W を求めると。

$$W_1 = W_{y=0} = \frac{2M_{II}a^2}{\pi^2 D} \left[\frac{\pi^2}{12} \bar{s} (\bar{s}^2 - 3\bar{s} + 2) - \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^3} \sin m\pi \bar{s} \left(1 + \frac{m\pi V_0}{4a} \right) e^{-\frac{m\pi V_0}{2a}} \right] \quad \bar{s} = \frac{x}{a}$$

$$W_2 = W_{\frac{\pi}{2} > y > 0} = \frac{M_{II}a}{2\pi^2 D} \left[\frac{a\pi^2}{3} \bar{s} (\bar{s}^2 - 3\bar{s} + 2) - \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^2} \sin m\pi \bar{s} \left[\left(\frac{2a}{m\pi} + y + \frac{V_0}{2} \right) e^{-\frac{m\pi(y+V_0)}{2a}} + \left(\frac{2a}{m\pi} - y + \frac{V_0}{2} \right) e^{-\frac{m\pi(y-V_0)}{2a}} \right] \right]$$

$$W_3 = W_y = \frac{V_0}{2} = \frac{M_{II}a}{2\pi^2 D} \left[\frac{a\pi^2}{6} \bar{s} (\bar{s}^2 - 3\bar{s} + 2) - \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^2} \sin m\pi \bar{s} \left[\left(\frac{2a}{m\pi} + V_0 \right) e^{-\frac{m\pi(2y+V_0)}{2a}} \right] \right]$$

$$W_4 = W_y > \frac{V_0}{2} = \frac{M_{II}a}{2\pi^2 D} \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m^2} \sin m\pi \bar{s} \left[\left(\frac{2a}{m\pi} + y + \frac{V_0}{2} \right) e^{-\frac{m\pi(2y+V_0)}{2a}} - \left(\frac{2a}{m\pi} + y - \frac{V_0}{2} \right) e^{-\frac{m\pi(2y-V_0)}{2a}} \right]$$

以上の4つの式のいずれかを用いればモーメント M_{II} による節線IIへII又はIIIへIII上の任意の選点のたわみ角は簡単に求まる。また相対辺に作用するモーメント M_{III} によるたわみ角も同様に求まる。

例えれば M_{II} 及び M_{III} による節線IIへII上の選点のたわみ角 θ_m は

$$\theta_m = \Theta_m(M_{II}) + \Theta_m(M_{III}) = \frac{a}{2\pi D} \left[M_{II} \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{m} \left\{ \left(\frac{2}{m\pi} + \frac{y_m}{a} + \frac{V_0}{2a} \right) e^{-\frac{m\pi(2y_m+V_0)}{2a}} - \left(\frac{2}{m\pi} + \frac{y_m}{a} - \frac{V_0}{2a} \right) e^{-\frac{m\pi(2y_m-V_0)}{2a}} \right\} \right. \\ \left. + M_{III} \left[\frac{\pi}{3} + \sum_{m=1}^{\infty} \frac{(-1)^m}{m} \left\{ \left(\frac{2}{m\pi} + \frac{y'_m}{a} + \frac{V'_0}{2a} \right) e^{-\frac{m\pi(2y'_m+V'_0)}{2a}} + \left(\frac{2}{m\pi} - \frac{y'_m}{a} + \frac{V'_0}{2a} \right) e^{-\frac{m\pi(2y'_m-V'_0)}{2a}} \right\} \right] \right]$$

また与えられた荷重による図-3に示す2辺単純支持の一方向無限板のPm点に加けるたわみ角を $\theta_m(L)$ と表わせば、 M_{xy} , M_{yy} の不静定分布モーメント及び荷重によるPm点のたわみ角は次のように近似される

$$\theta_m = \sum_{j=1}^J \theta_m(M_{IIj}) + \sum_{j=1}^{J'} \theta_m(M_{IIIj}) + \theta_m(L) \quad J, J' \text{ は } M_{II}(y), M_{III}(y) \text{ の分割数}$$

以上、図-3に示すような1ブロックのモーメントが作用する一方向無限板の解を基に重ね合せを行う2辺節線上の任意の選点のたわみ角が求められる。次に図-2を参照して同じ一方向板上で切断される斜線境界上に選点P_j等を探りこれらを満足させて近似的に自由辺の条件を満足するための補足解を境界選点法に便利形容で次のようになる。

$$W_5 = \sum_{j=1}^S [f_j(\eta) A_j - g_j(\eta) B_j + \bar{f}_j(\eta) \bar{A}_j - \bar{g}_j(\eta) \bar{B}_j] \sin j\pi \bar{s}$$

$$f_j(\eta) = \{(\beta_2 \eta - \beta_1 \eta) e^{j\pi \eta} + (\beta_2 \lambda + \beta_1 \eta) e^{j\pi \eta}\} j\pi \quad g_j(\eta) = \beta_1 e^{j\pi \eta} + \beta_2 e^{-j\pi \eta}$$

$$\bar{f}_j(\eta) = \{(\beta'_2 \eta - \beta'_1 \eta) e^{j\pi \eta} + (\beta'_2 \lambda + \beta'_1 \eta) e^{j\pi \eta}\} j\pi \quad \bar{g}_j(\eta) = \beta'_1 e^{j\pi \eta} + \beta'_2 e^{-j\pi \eta}$$

$$\beta_0 = \frac{1}{1 - (-1)^{j+1} e^{-j\pi \eta}} \quad \beta_1 = \frac{(-1)^{j+1} e^{-j\pi \eta}}{1 - (-1)^{j+1} e^{j\pi \eta}} \quad \beta_2 = \frac{(-1)^{j+1} e^{-j\pi \eta}}{1 - (-1)^{j+1} e^{j\pi \eta}} \quad (\text{斜正対称系})$$

$$\beta'_0 = \frac{1}{1 + (-1)^{j+1} e^{-j\pi \eta}} \quad \beta'_1 = \frac{(-1)^j e^{-j\pi \eta}}{1 + (-1)^{j+1} e^{j\pi \eta}} \quad \beta'_2 = \frac{(-1)^j e^{-j\pi \eta}}{1 + (-1)^{j+1} e^{j\pi \eta}} \quad (\text{斜逆対称系})$$

$$\lambda = \frac{b}{a} + \tan \theta \quad \theta: \text{斜角} \quad \gamma = \frac{\pi}{\lambda} \quad S: \text{境界選択 } P_j \text{ の数}$$

このようすが補足解による斜線上の点 P_m のたわみ角 $\theta_{m(c)}$ は

$$\theta_{m(c)} = \sum_{j=1}^s \frac{1}{a^2} \{ f_j(\eta_m) A_j - g_j(\eta_m) B_j + \bar{f}_j(\eta_m) A'_j - \bar{g}_j(\eta_m) B'_j \} \quad \eta'_m = \frac{y'_m}{a}$$

$$\text{結局 } \theta_m = \sum_{i=1}^s \theta_m(M_{iLL}) + \sum_{j=1}^s \theta_m(M_{iLL}) + \theta_m(L) + \theta_m(c)$$

また補足解 W_i の構成常数は、自由边上の各選択 $P_j(x_j, y_j)$ における、斜边上直角方向のモーメント。

からびにせん断力の条件より次式によって定められる。

$$\sum_{j=1}^s \frac{f^2 \pi^2}{a^2} \{ \{ c_1 (t_j(\eta_j) - Z C_2 g_j(\eta_j)) A_j + (c_1 \bar{f}_j(\eta_j) - Z C_2 \bar{g}_j(\eta_j)) A'_j - c_1 (g_j(\eta_j) B_j + \bar{g}_j(\eta_j) B'_j) \} \sin j \pi \xi_j \\ - c_3 (f_j(\eta_j) - g'_j(\eta_j)) A_j + \{ f'_j(\eta_j) - \bar{g}_j(\eta_j) \} A'_j - \bar{g}'_j(\eta_j) B_j - \bar{g}_j(\eta_j) B'_j \} \cos j \pi \xi_j \} + \delta_j = 0$$

$$\sum_{j=1}^s \frac{f^2 \pi^3}{a^3} \{ \{ (d_1 t'_j(\eta_j) - d_2 g'_j(\eta_j)) A_j + (d_1 \bar{f}'_j(\eta_j) - d_2 \bar{g}'_j(\eta_j)) A'_j - d_1 (g'_j(\eta_j) B_j + \bar{g}'_j(\eta_j) B'_j) \} \sin j \pi \xi_j \\ + \{ (d_3 t'_j(\eta_j) + 2 d_4 g'_j(\eta_j)) A_j + (d_3 \bar{f}'_j(\eta_j) + 2 d_4 \bar{g}'_j(\eta_j)) A'_j - d_3 (g'_j(\eta_j) B_j + \bar{g}'_j(\eta_j) B'_j) \} \cos j \pi \xi_j \} + \psi_j = 0$$

$$\text{ただし } f'_j(\eta_j) = \{ (P_2 \lambda - S_1 \eta_j) e^{j \pi \xi_j} - (S_2 \lambda + S_0 \eta_j) e^{-j \pi \xi_j} \} / \pm \pi \quad g'_j(\eta_j) = S_1 e^{j \pi \xi_j} + S_0 e^{-j \pi \xi_j} = 0$$

$$\bar{f}'_j(\eta_j) = \{ (P_2' \lambda - P_1 \eta_j) e^{j \pi \xi_j} - (S_2' \lambda + S_0 \eta_j) e^{-j \pi \xi_j} \} / \pm \pi \quad \bar{g}'_j(\eta_j) = P_1 e^{j \pi \xi_j} + S_0 e^{-j \pi \xi_j}$$

$$c_1 = (1-v)(\cos^2 \theta - \sin^2 \theta), \quad c_2 = \cos^2 \theta + v \sin^2 \theta \quad c_3 = -2(1-v) \sin \theta \cos \theta$$

$$d_1 = (1-v)(3 \sin^2 \theta - \cos^2 \theta) \cos \theta, \quad d_2 = \{ (1-v)(5 \sin^2 \theta - \cos^2 \theta) + 2 \} \cos \theta$$

$$d_3 = (1-v)(3 \cos^2 \theta - \sin^2 \theta) \sin \theta, \quad d_4 = \{ 1 + (1-v)(\sin^2 \theta - 2 \cos^2 \theta) \} \sin \theta$$

ϕ_j, ψ_j はそれぞれ不静定モーメント $M_{ij(p)}, M_{ij(q)}$ 荷重によって二方向無限板の斜边上選択位置 (x_j, y_j) に生じているモーメント及びせん断力であって、前述の W_i ～ W_4 のたわみ角を用いる重ね合せによつて次式より得られるが、 W_i と座標系を異にするので重ね合せの符号に注意を要する。

$$\phi_j = (a_1 \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} + a_2 \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} + a_3 \frac{\partial^2 w}{\partial xy})(x_j, y_j) \quad \psi_j = (b_1 \frac{\partial^2 w}{\partial x^3} + b_2 \frac{\partial^2 w}{\partial y^3} + b_3 \frac{\partial^2 w}{\partial x^2 y} + b_4 \frac{\partial^2 w}{\partial xy^2})(x_j, y_j)$$

$$a_1 = \sin^2 \theta + v \cos^2 \theta \quad a_2 = \cos^2 \theta + v \sin^2 \theta \quad a_3 = -2(1-v) \sin \theta \cos \theta$$

$$b_1 = -\{ \} + (1-v) \cos^2 \theta + \sin \theta \quad b_2 = \{ \} + (1-v) \sin^2 \theta + \cos \theta$$

$$b_3 = \{ \} + (1-v)(\cos^2 \theta - 2 \sin^2 \theta) \} \cos \theta \quad b_4 = -\{ \} + (1-v)(\sin^2 \theta - 2 \cos^2 \theta) \} \sin \theta$$

以上は頂板の諸条件を満足するための解式である。

次に、側壁の解式を求める。側壁の場合、自由边上は境界選択を採らず、斜板と連続する斜線上、からびに固定辺に選択を採つて、 γ の変形の条件を満足させるようにする。次頁の図-4 を参照して、 γ 方向に側壁の高さ b の 2 倍の辺長を有する矩形板を考え、その斜板と相接する支持辺 II ～ II' に斜板の端エモーメント M_{II} と逆方向の $-M_{II'}$ を分布させ斜板の場合と同一の分割を行う。一方、相対する支持辺に同様のモーメントを作用させて対称変形を生ぜしめる。いまある分割区間のモーメント M_{II} が作用した場合の対称変形のたわみ W_i は

$$W_i = \frac{2M_{II}}{D R f} \sum_{l=1}^{\infty} \sum_{m=1}^{\infty} \frac{1}{B_m} f_{mn}(y) \sin \beta_m y \sin \alpha_m x$$

ただし

$$f_{mn}(y) = A_{mn} \left[\sin \beta_m y + \frac{\beta_m^2}{\alpha_m} \left(\frac{\beta_m^2}{2} + 2 - v \right) \left\{ G_{mn} (\alpha_m y) \sinh \alpha_m y - \frac{2}{1-v} \cosh \alpha_m y \right\} + H_{mn} \left(\frac{1+v}{1-v} \times \sinh \alpha_m y + \alpha_m y \cosh \alpha_m y \right) - \frac{1}{1-v} \sinh \alpha_m y \right] \quad \alpha_m = \frac{m \pi}{2 h} \quad \beta_m = \frac{n \pi}{h} \quad A_{mn} = \frac{4 \alpha_m}{(\alpha_m^2 + \beta_m^2)^2}$$

$$G_{mn} = \frac{(-1)^n \coth \alpha_m b - \coth \alpha_m b}{(3+v)^2 - \{(1-v)\alpha_m b \coth \alpha_m b\}^2} + 3 + v - (-1)^n (1-v) \alpha_m b \coth \alpha_m b$$

$$H_{mn} = \frac{3+v - (-1)^m(1-v)\alpha mb \operatorname{cosech} \alpha mb}{(3+v)^2 - \{(1-v)\alpha mb \operatorname{cosech} \alpha mb\}^2}$$

次に側壁の固定辺に相当する中心線 I~I'に矩形分割された線荷重を作用させて対称変形を生ぜしめる。

いまある分割区間の等分布線荷重 P_{II} が作用した時にたわみ δ_{II} は

$$W_{II} = \frac{Q_{II}k}{D \cdot b} \sum_{m=1,3,5,\dots}^{\infty} \sum_{n=1}^l \frac{1}{\alpha_m b} f_{mn}(y) \sin \frac{P_{II} y}{2} \sin \frac{m \pi}{2} \sin \frac{n \pi}{b}$$

M_{III}, P_{II} の重ね合せにより、不静定力 M_{IIy}, S_{IIy} の作用する場合に固定辺 I~I'が直線を保持する条件は

$$\delta_{II} = \sum_{i=1}^l W_{II}(M_{IIIi}) + \sum_{i=1}^l W_{II}(Q_{IIi}) = 0$$

M_{IIy}, P_{II} の作用による傾角との節線 II~II'に於ける選択 P_{II} にかけるたわみ角 θ_{II}' は $(\frac{\partial w}{\partial x})_{y=0} = \theta_{II}'(M_{IIIi})$ $(\frac{\partial w}{\partial x})_{y=y_i} = \theta_{II}'(Q_{IIi})$ たり

$$\theta_{II}' = \sum_{i=1}^l \theta_{II}'(M_{IIIi}) + \sum_{i=1}^l \theta_{II}'(Q_{IIi}) \quad l, l' は M_{III}, Q_{II} の分割数$$

i) 節実方程式: 不静定モーメント M_{IIy}, M_{IIIy} の分割値 M_{IIIi}, M_{IIIj} 等は節線 II~II', III~III' 上の各選真に於けるたわみ角を等置して得られる。例えば II~II' 上の P_{II} では

$$\sum \theta_{II}(M_{IIIi}) + \sum_{i=1}^l \theta_{II}(M_{IIIi}) + \theta_{II}(L) + \theta_{II}(C) = \sum_{i=1}^l \theta_{II}'(M_{IIIi}) + \sum_{i=1}^l \theta_{II}'(Q_{IIi})$$

ii) 片方程式: 頂板の変位量 δ に対する節線 II~II', III~III' に作用するせん断力に対し、頂板の面内で $\sum S = \int^b S_{IIy} dy + \int^b S_{IIIy} dy = 0$ の条件式を立てる。この式は次式で近似される。

$$\sum S = \sum_{i=1}^l Q_{IIi} U_{IIi} + \sum_{i=1}^l Q_{IIIi} U_{IIIi} = 0 \quad l, l' は Q_{IIi}, Q_{IIIi} の分割数$$

iii) 固定辺の条件式: 固定辺に於ける $\theta_y = 0$ は既に満足されているが、未知の分布線荷重 Q_{IIy}, Q_{IIIy} の分割値 Q_{IIi}, Q_{IIIi} に於ける固定辺 I~I', IV~IV' 上の各選真のたわみが直線を保持する条件式を立てる。例えば、I~I' 上の P_{II} では $\delta_{II} = \delta$

iv) 頂板の自由辺に於ける条件式: 補足解に含まれる未定常数 A_j, A'_j, B_j, B'_j 等に対し、前述の様な $M = 0, S = 0$ の条件式を立てる。

以上の各式を連立させて解けば必要な未知量が求まる。

V) 計算例：

- 圓筒脚部固定斜折板

計算 Data, $a = b = h, \tan \theta = 0.4$

節線上的不静定力の分割数、5等分

節線上の選真数：5 節線境界上に

採つた選真数：5

頂板に等分布荷重 (q) を満載する正対称変形の場合について計算を行った

左図に示すのは得られた節線モーメントの分布で上部節線上では鈍角側でかなり増大がみられる。

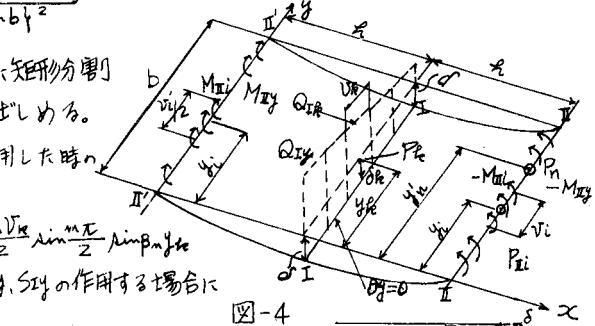


図-4

